

平成 29 年度 文部科学省委託事業

# 体験活動を通じた道徳教育推進事業

## 報 告 書



平成 30 年 3 月  
秋田県教育庁生涯学習課

## はじめに

プロジェクトアドベンチャー（以下P A）は、アメリカで生まれた教育プログラムで、アドベンチャーの性格を生かして、集団内の信頼関係を築き、人の器を大きくすること、人の成長を目指すプログラムである。

秋田県教育委員会では、P Aが人間形成に有効なプログラムであると判断し、平成14年度から各少年自然の家にP Aエレメントを設置し、児童生徒が「社会をたくましく生き抜く力」を効果的に身に付けることができるよう、P Aを活用した\*セカンドスクールの利用を推進してきた。

道徳の「特別の教科」化や新学習指導要領の実施といった学校教育の変化や、人間関係の希薄化やいじめといった、子どもたちをめぐる様々な今日的課題に対応する手段の1つとして、P Aプログラムを提供することにより、参加者が問題解決的で体験的な活動を通して、主体的に気づきや学びを獲得するとともに、よりよい人間関係やいじめのない学校を実現できるよう取組を推進していく必要がある。

P Aプログラムでは、＜体験→振り返り→気づき→活用＞という「学びのサイクル」を大切にするため、様々な場面での学びの深化・定着を図ることができる。また、与えられた課題に対し、チームで目標を設定し協力して取り組む中で、自ずと個人で考えたり、チームで話し合ったりする場面がつけられる。これら、P Aプログラムのねらいや手法が、道徳教育との親和性があることから、P Aを道徳の授業に結び付けることができないかと考え、今年度から、「体験活動を通じた道徳教育推進事業」として、調査、研究を行っている。

本報告書の内容を参考に、たくさんの方々にP Aの効果を実感してもらいたいと考えている。

### \*セカンドスクールの利用とは

教育施設等の人的・物的機能を十分に活用しながら、学校と教育施設等が連携して、各教科や総合的な学習の時間に関する活動や、郷土の自然や文化に触れる体験、共同生活体験等を複合的に実施することにより、教科等の授業時数を確保しつつ、体験活動の充実につなげる取組で、秋田県教育委員会では、平成11年度から県立の教育施設を中心にセカンドスクールの利用を推進している。



目次  
contents

はじめに	1
目次	2
プロジェクトアドベンチャー（PA）とは	3
I 事業の概要	5
II 実施内容	
1 道徳の授業ツールとしてのPAプログラム	
(1) 大館少年自然の家	7
(2) 保呂羽山少年自然の家	10
(3) 岩城少年自然の家	13
2 PA体験研修会の内容	16
III アンケート調査結果	18
IV 成果と課題	19
活動のスナップ	20
新聞掲載	21



## ◎プロジェクトアドベンチャー（PA）とは

人と人との関係を築く上で大切な「信頼する心」の育成や「未知のことに挑戦するチャレンジ精神」を高めるといった、特定の教育目的をもって組織的に行う体験活動の手法である。

学習指導要領でねらう「豊かな心」の育成に適しており、学校では、これまでも学級開きや宿泊体験活動等で活用されている。全国的にはJリーグや企業研修等にも多く導入されている。

体験的な活動を通して、子どもたち自身の気づきや子どもたち同士の関わり合いから生まれる主体的な「学び」を大切にしており、次の3つの考え方を基にプログラムを行う。

- ① **フルバリュー・コントラクト**・・・みんながプログラムを楽しむために、お互いを最大限に尊重することを約束する

3  
つ  
の  
約  
束

心と身体の安全を守る

自分に正直である

ネガティブなことにこだわらない

- ② **チャレンジ・バイ・チョイス**・・・適度な負荷がかかる挑戦の度合いや方法について、自己選択・自己決定する

- ③ **体験学習サイクル**・・・参加者が効果的に体験から「学び」を獲得するよう、①②を踏まえ、〈体験→振り返り→気づき→活用〉という「学びのサイクル」を大切にする

## ■エレメント（用具設備）を活用したPAプログラム

### ニトロクロッシング

— 互いに協力する大切さを実感 —



10mほど離れた2つの台の間を、一人ずつロープを使ってターザンの要領で渡る挑戦。渡る際に体を押してあげたり、台から落ちないように支え合ったりする。一人では難しいことに、友だちに支えられながら挑戦することの喜びや、互いに協力する大切さを楽しみながら実感できる。

### ジャイアントシーソー

— 集中力や信頼関係が必要 —



10数名が一度に乗れる大きなシーソー。どうすれば思った通りにシーソーが動くか相談しながら、全員で息を合わせてバランスを取り、一人ずつ乗ったり、互いに入れ替わったりする挑戦。シーソーが地面につかないよう課題をクリアするためには、集中力や信頼関係が必要。

## 島めぐり

— 協力し合う、考えを認め合う —



2枚の異なった長さの板を使い、島(90cm角台)から島へと全員が移動する挑戦。板が地面についたり、誰かが落ちたりすればやり直し。2枚の板の使い方や、進み方がポイントとなる。全員で知恵をしぼり、協力し合う必要があり、多様な考えを認め合う活動。

## 電柱でござる

— コミュニケーションを深める —



地面から45cm程の高さに設置された6~9mの丸太をコースに、グループを半分に分け、互いに両端から中央に向かい、丸太の上で交差しながら反対側の橋までたどり着く挑戦。地面に落ちずに入れ替わる作戦会議が必要で、コミュニケーションを深めるのに役立つ。

## モホークウォーク

— 互いの意思を伝え共有する —



木と木の間、丈夫なワイヤーケーブルを張ったコース。グループ全員が、地面に落ちずに向こう端へ渡り切る挑戦。落ちたらスタート地点に戻るかグループの最後尾につく。一人ではケーブルが揺れて落ちやすいため、サポートの仕方に工夫が必要。互いの意思を伝え、共有することで問題解決を図る。バリエーションとしてつり下げたいくつかのロープにつかまりながら渡るものがある。

## くもの巣めぐり

— 相手の立場を考える —



木と木の間(3~4m)に張られた、人が通れるほどの14~17個の網目による「くもの巣」。挑戦者は、体が網目に触れないよう通過する。向こう側の仲間がくもの巣に触れてもやり直しとなる。互いのコミュニケーションが重要で、相手の立場で考えることの大切さを学ぶ。

## 大脱走

— 互いを理解し認め合う —



高さが3mほどの垂直な壁を仲間と協力して全員が登りきる挑戦。壁は凹凸がなく、一人で上ることはできないため、アイデアも大切だが、互いをよく理解し、認め合う環境が大切。また、挑戦者が高い位置から落下しても身体的安全を確保することを、全員が理解し行うことも大切である。

## キャットウォーク

— 仲間の良さへの気付き —



地上から約6m、2本の立木の上に水平に取り付けられた丸太。高さへの恐怖と向き合い、安全確保のためのロープを持つ仲間にも支えられながら、その上を歩く挑戦。自分で設定した目標を超えたとき、今までとは違った自分に出会う。また、支え、励ましてくれた仲間のよさに気付く。

# I

## 事業の概要

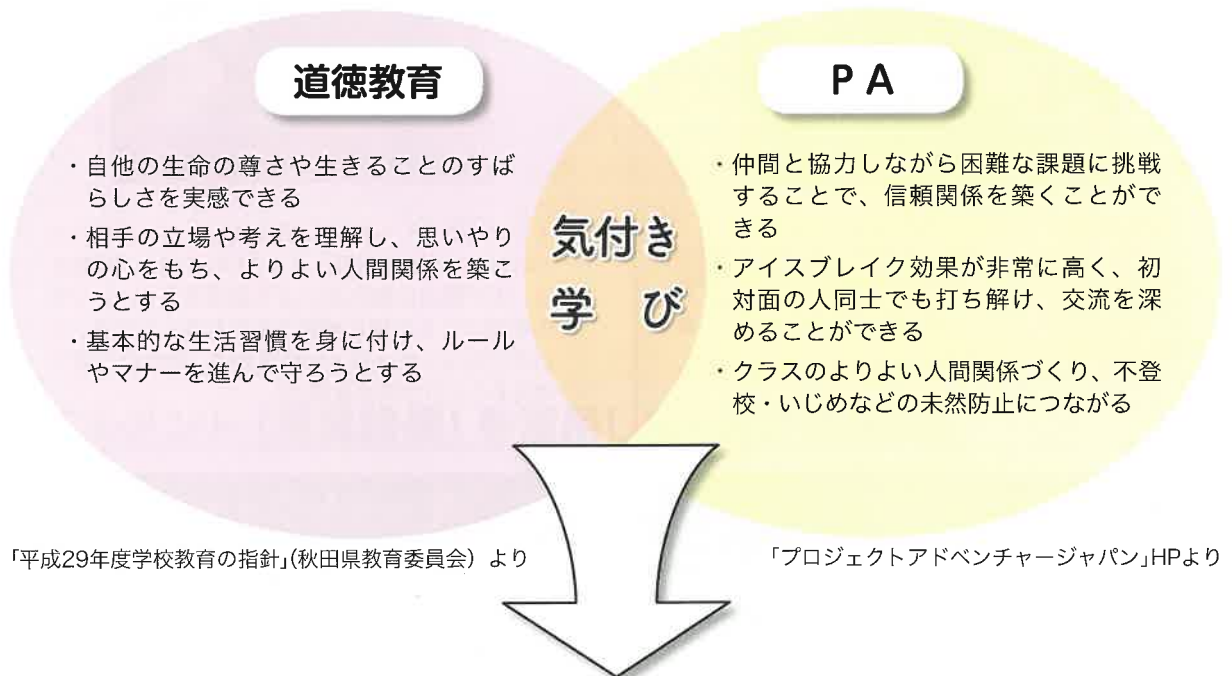
### 1 事業のねらい

PAプログラムのねらいや手法が、人の成長を促すものであるという性格上、道徳教育のねらいと通じる部分がある。そこで、PAプログラムを、小学校における道徳の授業のツールの1つとして結び付けることができないか、研究、検証する。

### 2 期待される効果

- (1) PAプログラムでは<体験→振り返り→気付き→活用>という「学びのサイクル」を大切にしておき、様々な場面で学びの深化・定着を図ることができる。
- (2) PAプログラムは、与えられた課題に対し、チーム（仲間）で目標を設定し協力して取り組む中で、自ずと個人で考えたり、チームで話し合ったりする場面が生まれる。
- (3) 少年自然の家と学校との連携により、年間計画に基づいて、社会教育主事・PA支援員(専門職員)が宿泊体験活動や、事前・事後の活動（学校での活動）を支援できる。

## ■プロジェクトアドベンチャー（PA）と「道徳」の親和性



よりよい人間関係や、いじめのない学校生活を実現



## ■ P Aと道徳の時間の関連付けについて

### ① <パターン1> 道徳の時間（学校）→ P A → 振り返り（自然の家）

道徳の時間に学んだことをP Aの活動を通して実感を伴った理解へと結び付けたり、P Aの活動後の振り返りを通して実生活での実践に結び付けたりする。

### ② <パターン2> P A → 振り返り（自然の家） → 道徳の時間（学校）

P Aの活動を道徳の時間における導入で想起させたり、展開後段で資料から離れて日常生活について考える場面に生かしたりする。

## 3 事業の内容

### (1) P Aプログラムを道徳の授業ツールとして活用

県立少年自然の家と学校が連携し、宿泊体験活動や出前講座等を通じて、P Aプログラムが道徳の授業のツールとしてどのように活用できるか調査研究を行う。

#### ①実施校

- ・秋田県立大館少年自然の家・・・大館市立長木小学校  
4年生 18名 平成29年8月29日(火)
- ・秋田県立保呂羽山少年自然の家・・・横手市立大森小学校  
5年生 48名 平成29年7月13日(木)
- ・秋田県立岩城少年自然の家・・・由利本荘市立西目小学校  
5年生 63名 平成29年9月19日(火)

#### ②実施内容

- ・実施校の児童を対象に、P A体験の前後に道徳の授業を実施する。
- ・活動の事前・事後等にアンケートを実施し、児童の変容について調査・分析を行う。  
※国立青少年教育振興機構「生きる力」測定ツールを活用
- ・教育研究発表会等において事業成果を発表し、各市町村教育委員会関係者や学校関係者等へ、道徳教育へのP Aプログラム活用の有効性を広めていく。

### (2) P A体験研修会の実施

教員等を対象に、P Aを体験してもらうことにより、P Aを道徳の授業のツールの1つとして考えるきっかけとする。

- ①日時 大館少年自然の家 平成29年8月24日(木) 9名参加  
保呂羽山少年自然の家 平成29年8月22日(火) 13名参加  
岩城少年自然の家 平成29年8月24日(木) 9名参加
- ②講師 株式会社プロジェクトアドベンチャー・ジャパン(P A J) トレーナー(各2名)

## II

# 実施内容

## 1 道徳の授業ツールとしてのPAプログラム

### (1) 秋田県立大館少年自然の家

実施校 大館市立長木小学校4年生

#### ① PAプログラムの実施について

実施プログラム	<b>ニトロクロッシング</b>
	クライミングロープを使い、A地点からB地点まで、グループ全員が渡りきる。

##### (ア) 児童の実態

- ・日常の場面では、特定の友達としか関わらない傾向がある。
- ・自分の考えを進んで話したり、率先して行動したりすることを恥ずかしいと思っている児童が多い。
- ・「難しそう」「できないかも」と思うと、挑戦すること自体をあきらめてしまうことがある。

##### (イ) PAを通して期待する姿

- ・友達を信頼し、助け合って課題を解決する。
- ・自分の考えや感情をお互いに伝え合う。
- ・失敗を恐れず、積極的に行動する。















##### (ウ) 活動のねらい

提示された課題に対して、自分の考えを話したり、友達の意見を聞いたりしながら、課題解決に向かって互いに信頼し、助け合って挑戦することができる。



全員がうまく向こうの島に渡れるかな？



	指導者や児童の声・行動		
体験	 <p>「どうしたらクリアできるかな？」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・声をかけ合う</li> <li>・教え合う</li> <li>・お互い励まし合う</li> <li>・集中する</li> </ul> <p><b>チャレンジタイム</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まだ乗れそうだよ</li> <li>・本当に全員乗れるの？</li> <li>・端っこが怖い</li> </ul> <p>お互いの声かけが少なく、ロープの受け渡しもうまくいかない</p> <p>↓</p> <p><b>失敗</b></p>	 
振り返り	 <p>「どんな声かけをしたのかな？」 「危ない場面はなかったかな？」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・無言のときもあった</li> <li>・ロープが顔に当たりそうになった</li> </ul>	
気づき	 <p>「失敗した原因はなんだろう？」</p>  <p>「どうしたらクリアできるかな？」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空いてるところを教えなかった</li> <li>・真ん中にも隙間があった</li> <li>・人やロープが来るのに危ないことがあった</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・渡る前やロープを渡すときに声をかけよう</li> <li>・最初は真ん中に固まろう</li> <li>・端っこの人が手を繋ごう</li> <li>・周りの人が空いてるところを教えよう</li> </ul>	 
活用	<p><b>チャレンジタイム</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ここ空いてるよ</li> <li>・大丈夫、できるよ</li> <li>・あと何人？</li> <li>・手を繋ごう</li> <li>・みんながんばろう</li> </ul> <p>↓</p> <p><b>大成功</b></p>	
振り返り	 <p>「失敗した時、何を思ったかな？」</p>  <p>「成功した時は、何を思ったかな？」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分も相手も、話さないと分からない</li> <li>・伝えることも、聞くことも大事だった</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・場面によって色々な声のかけ方があるんだと思った</li> <li>・あきらめずにみんなで協力したから成功したね</li> </ul>	 

## ② 児童と学級担任の声

### 児童

- ・みんなでいろいろな意見を出し合うと、成功すると気付いた。最初は協力する力が弱かったけど、PAをやっていくうちに、一人一人が助け合ったり、声をかけ合ったりするようになった。
- ・PAは、いろいろなプログラムをしながら、どうやればうまくいくか考えたり、みんなで話し合っって工夫を付け加えたり、あきらめずに何度も挑戦したりと、協力する力が必要なプログラムだった。工夫を付け加えるたびに、仲間の大切さが分かった。むずかしくて大変なときでも、「大じょうぶ。」という声をかけ合うことで、協力する力がどんどん増えていくような気がした。

### 学級担任

- ・PAを通して、それまで気付かなかった子どもたちの意外な一面（優しさ・リーダーシップ等）を知ることができた。
- ・PAは長時間であったが、誰一人あきらめず、粘り強く頑張る体験ができた。分かりやすい活動であり、達成感を味わうことができた。
- ・PAですぐに効果が出るわけではなく、そのとき学んだよさを継続させる工夫が必要である。

## ③ 道徳の授業との関連

「友情・信頼、助け合い」を主題に、このPA体験の後で、パターン2のとおり道徳の授業を行った。

### 大館少年自然の家 小林 寿 所長

- ・事後の授業を参観して、導入で「わんパークでどんな活動をしましたか」の担任の問いかけに、子どもたちは即座に多くの活動を答えた。活動から3か月が経過しても、PAでの成功体験やその後の振り返りが、強く心に残っている様子がうかがえた。
- ・「なぜみんなで成功することができたのだろう」の問いかけでは、深く議論する姿が見られ、ねらいとする価値「友情・信頼、助け合い」に迫る授業であった。提示した写真や映像は道徳の時間の資料として有効であった。
- ・PAを道徳の時間に活用するには、ねらいを焦点化する必要がある。そして、そのねらいを、PA指導者の自然の家職員と打合せで共有しなければならない。

## (2) 秋田県立保呂羽山少年自然の家

実施校 横手市立大森小学校 5年生

### ① PAプログラムの実施について

実施プログラム	<b>ジャイアント・シーソー</b>
	地面に付かないようにして全員がシーソーに乗るための作戦を考える。

#### (ア) 道徳の時間との関連

- ・PAと道徳の時間を関連させる場合、「友情、信頼」「相互理解、寛容」「よりよい学校生活、集団生活の充実」の内容項目で効果が見込めること。
- ・PAと道徳の時間を関連させるねらいの1つは、道徳の時間で学習した道徳的価値の理解をPA体験を通して実感を伴った理解に結び付けることである。

#### (イ) 事前打合せ

- ・道徳の時間の内容項目は(ア)に記載の3つの中から選んでもらったが、授業のねらいや進行の仕方については学級担任に任せた。
- ・事前に授業の構想について学級担任から説明してもらい、共通理解を図った。
- ・宿泊体験学習の中で自然の家のスタッフが、道徳の授業のねらいを反映させたPAプログラムを考え、2時間程度で行うこととした。


















#### (ウ) 活動のねらい

男女を問わず友達に誠意をもって接し、お互いのよさを認め信頼し、課題に対して仲よく助け合うことができる。



みんなが協力しないと解決ができない課題に挑戦



指導者や児童の声・行動	
体験	 <p>「どうしたらクリアできるかな？」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・声をかけ合う</li> <li>・みんなで協力する</li> <li>・みんなで真ん中に乗る</li> </ul>  <p><b>チャレンジタイム</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・そっちに体重かけたらだめだよ</li> <li>・どうしたら成功するの</li> <li>・難しいよ</li> </ul> <p>↓</p> <p><b>失敗</b></p> 
振り返り	 <p>「失敗した時、どんな様子だったかな？」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・乗ってる人だけ頑張ってる</li> <li>・ほとんど声かけがない</li> <li>・男女が分かれている</li> </ul>   <p>「失敗した原因はなんだろう？」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・動いてる人、動いてない人みんなでチャレンジしよう</li> <li>・男女関係なく、お互い助け合おう</li> </ul> 
気づき	 <p>「どうしたらクリアできるかな？」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・離れないで真ん中に集まろう</li> </ul>   <p>「外から見てる人も何かできないかな？」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・周りがシーソーの動きを教えよう</li> </ul> 
活用	<p><b>チャレンジタイム</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大丈夫、大丈夫 もう少しだよ</li> <li>・離れないで真ん中乗って</li> </ul> <p>↓</p> <p><b>失敗</b></p> 
振り返り	 <p>「前よりうまくいったところはないかな？」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・周りの人の声かけがよかった</li> <li>・男女関係なく助け合っていた</li> <li>・活発に声をかけ合おう</li> <li>・もっと男女が助け合おう</li> </ul> 
活用	<p><b>チャレンジタイム</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・みんな真ん中に集まって</li> <li>・手を繋ごう</li> <li>・右に傾いてるよ</li> <li>・もう少しだよ</li> <li>・あと何人？</li> </ul> <p>↓</p> <p><b>大成功</b></p> 
振り返り	 <p>「何がよかったからクリアできたのかな？」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなで助け合ったからね</li> <li>・もうできないかと思ってた</li> <li>・男女で協力できた</li> <li>・<b>大きな達成感</b></li> </ul> 



大成功!みんなで助け合った成果だね

## ② 児童と学級担任の声

### 児童

- ・男子だけでも達成感はあるけれど、男女で協力したらもっと達成感が出てうれしかった。
- ・P Aで協力できたから、これからは学校生活でも協力できるかもしれないと思った。
- ・男女で協力することがあまりなかったけど、ジャイアントシーソーを男女で力を合わせてできて、絆が深まったと思う。

### 学級担任

- ・P A体験を通して、「協力したら課題が解決できた」という成功体験をしたことで、係や委員会活動でも、協力して活動する児童が多くなった。

## ③ 道徳の授業との関連

「友情・信頼」を主題に、男女が協力して、楽しいクラスにしたいというねらいで、このP A体験の前後に、パターン1と2で道徳の授業を行った。

### 保呂羽山少年自然の家 中川 一志 所長

- P Aと道徳の時間の関連を図った指導を行う効果としては、
  - ・道徳の時間で学習した道徳的価値の理解を、P A体験を通して実感を伴った理解に結び付けることができること
  - ・P A体験を道徳の時間の話合いに生かすことで、「考え、議論する」道徳の時間の展開が期待できることなどが考えられる。
- 今回の実践では、児童が男女で協力することの大切さを実感的に理解できたことが児童の感想や学級担任の声などから捉えることができた。
- 今年度は、「友情、信頼」の内容項目のみの検証になったが、来年度は、他の内容項目での展開例も各学校に紹介して、検証を図っていきたい。

### (3) 秋田県立岩城少年自然の家

実施校 由利本荘市立西目小学校 5年生

#### ① PAプログラムの実施について

##### 実施プログラム

##### 島めぐり

2枚の板を使い、床に落ちないように指定された島へ移動する。

(ア) PAを通して育てたい子どもの姿 (担任)

- ・自分たちで考える。
- ・考えを出し合い、お互いの意見を尊重する。
- ・折り合いを付ける。

(イ) プログラムの留意点 (自然の家)

- ・2日間にわたりPAを体験してもらえるので、\*ピーイングや複数のプログラムを採り入れてPAの効果を十分に上げる。

(ウ) 活動のねらい

- ・人との関わりを考えたり、集団で課題を解決したりする。




板をどう使えばみんなが渡れるかな？

\*ピーイングとは

模造紙に各自の考えを書き出し、そのグループの約束を自分たちで作る。ここでは他の人にさ  
れたり言われたりして「うれしいこと」「嫌なこと」を書き出した。



指導者や児童の声・行動	
体験	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;">  <p>「2枚の板をどう使えば橋になるかな？」</p> <p><b>チャレンジタイム</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・行く先の島に片方の板を届けよう</li> <li>・3つの島で板を押さえる人数を考えよう (次第に注意力散漫に)</li> </ul> </div> <div style="width: 45%;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・渡る人以外で踏めばいい</li> <li>・端をしっかり押さえないと</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・なんで落とすんだよ</li> <li>・だって重いんだよ</li> <li>・もっと力の強い人がやればいいじゃない</li> </ul>  <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center; background-color: #4a5568; color: white; padding: 5px; border-radius: 10px;">失敗</p> </div> </div>
振り返り	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;">  <p>「今聞こえている言葉は、自分が言われてがんばれる言葉かな？」</p>  <p>「他の人も何かできることないかな？」</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>ビーイングに書いた約束を忘れていた</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・応援や励まし、アドバイスができる</li> <li>・周りの人が危ないことを教える</li> </ul>  </div> </div>
気付き	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;">  <p>「失敗の原因を考えてみよう」</p> </div> <div style="width: 45%;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・板を渡すところで失敗してる</li> <li>・渡す方も受け取る方も慎重に</li> </ul>  </div> </div>
活用	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p><b>チャレンジタイム</b></p> </div> <div style="width: 45%;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・集中、集中</li> <li>・もう少し腕を伸ばして</li> <li>・慌てないで渡って</li> <li>・みんなで声をかけ合おう</li> </ul>  <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center; background-color: #e91e63; color: white; padding: 5px; border-radius: 10px;">大成功</p> </div> </div>
振り返り	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;">  <p>「チャレンジするときの気持ちや成功したときの気持ちはどうだったかな？」</p> </div> <div style="width: 45%;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・途中でこれはできないと思った</li> <li>・失敗したとき声をかけてもらえてほっとした</li> <li>・終わりの方で、みんなで1つになれたから成功した</li> </ul>  </div> </div>



みんなで声をかけ合って協力するぞ

## ② 児童と学級担任の声

### 児童

- ・学校に帰ってからできるようになったことが3つあった。1つ目は自分の管理、2つ目は協力で、ただ協力するのではなく相手の様子やその場の空気でもよい協力ができるようになった。3つ目は感情の伝え方で、表情だけでは伝わらないことは言葉にしてみるなど、少し考えてみるとよいことが分かった。
- ・失敗をして、何回もやり直して、もう成功しないんじゃないかと思ったけど、みんなで声をかけ合ったときに「あっこれがいいんだ」と思った。確かに前より絆が深まったと思った。
- ・自分1人でやれば小さい力だけれど、みんなでやれば大きい力になると感じた。そして、みんなで作戦を立てているとき、いろいろ意見が出てきてすごかった。
- ・P Aで協力や話し合いの大切さが改めて分かった。自分が失敗した時、他の人たちが応援してくれたり、手をさしのべてくれたりして成功することができた。

### 学級担任

- ・P Aを活用するに当たり、ねらいに応じて考えていくと、アクティビティによって活用が難しいもの、可能なものがありそうだと考える。
- ・ゲストティーチャーがいることで、客観的な多くの「目」で児童を見ることができるようになるのはうれしいことである。

## ③ 道徳の授業との関連

「集団生活の充実」を主題に、このP A体験の後に、パターン2のとおり道徳の授業を行った。

### 岩城少年自然の家 小玉 雅彦 所長

- ・P Aの基本的な考え方である「フルバリュー・コントラクト＝お互いの人格を最大限に尊重する」は、道徳教育を進めるに当たり大切な「人間尊重の精神」と共通する。
- ・P Aをとおして、子どもたちが主体的にねらいとする道徳的価値に関わる「気づき」や「学び」を獲得することが期待できる。
- ・どのP Aプログラムが、どの内容項目に、どのように活用できるのかを検証していきたい。

## 2 PA体験研修会の内容

### 1 講義

#### (1) プロジェクトアドベンチャーがもつ教育観点について

##### ①プロジェクトアドベンチャープログラムの3つの要素を学ぶ

###### (ア) アドベンチャー

危機的状況を切り抜けるために、協力し合うという人間の本能を活性化する働きがある。

###### (イ) 体験学習

体験したことを生活に還元するために、振り返りを行い学びを深める。

###### (ウ) フルバリュー・コントラクト

お互いを最大限に尊重するという約束をして、否定されたり批判されたりしない、誰もが話しやすい環境をつくる。

##### ②新学習指導要領（「特別の教科 道徳」）とPAとの関連性を学ぶ

###### (ア) 道徳で指導すべき内容項目を分類する4つの視点

A 主として自分自身に関すること

B 主として人との関わりに関すること

C 主として集団や社会との関わりに関すること

D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること

☆4つの視点のうち、A B Cの3つに関してPAとの関連性が深い。

###### (イ) 学習指導過程や指導方法の工夫の配慮事項

(a) 道徳教育の指導は、道徳の授業を中心に、全教育活動を通じて行う。

(b) 授業内容は、教師の押しつけではなく、主体的、対話的な「考える道徳」であるべきである。

(c) 問題解決的な学習や道徳的行為に関する体験的な学習等を適切に取り入れるなど、指導方法を工夫する。その際、それらの活動を通じて学んだ内容の意義などについて考えることができるようにする。

☆PAプログラムは、〈体験→振り返り→気付き→活用〉のサイクルで行われるので、上記の配慮事項との関連性が深い。

## 2 実技

### (1) プロジェクトアドベンチャーの体験活動について

#### ①アイスブレイク

参加者の緊張や不安を緩和する活動

#### ②コミュニケーション

参加者同士がスムーズに関わり合うために、表現・傾聴・発信などを主とした活動

#### ③イニシアティブ

コミュニケーションと協力により課題を解決する活動



メンバーのコミュニケーションと協力が大切です



## (2) 学校現場での実践にどう結び付けるかを学ぶ

- ① 道徳のモデル授業体験（45分）
- ② モデル授業の授業案をもとに協議、質疑応答
- ③ 体験学習を取り入れた指導計画、指導案づくりのポイント
  - (ア) 児童の実態、学級の実態からスタートする
  - (イ) 他教科、行事、地域活動とのクロスカリキュラムも可
  - (ウ) 観察（支援と評価のポイント、安全面など）
    - ※状況により介入する
  - (エ) ねらいと観察から問い（質問）をたてる
  - (オ) 評価と次時の活動の一体化

## 3 参加者の声

- ・ P Aの活用例は工夫次第で大きく広がると感じた。これから導入の方策を検討したい。
- ・ P Aが道徳の授業になるのではなく、活用するのだということを認識できた。
- ・ P Aの体験のみだと思っていたが、解説や道徳との関連について学ぶ場があり勉強になった。
- ・ 道徳のこれからの教科化に対する悩みが少しほぐれたような気がした。
- ・ 1つの課題にチームで取り組むことで、達成される充実感や楽しさを味わうことができた。
- ・ 実際に体験したことで有効性を感じられた。
- ・ 学校現場で使えることを中心に紹介していただき、多くのヒントを得ることができた。

## 4 P A J トレーナーから

- ・ 今回の研修会の成果としては、道徳で指導する特定の内容項目と、P Aが大切にしている教育視点についての親和性について認知していただくことができた。
- ・ 体験的に学ぶ手法は、道徳で指導する特定の内容項目に対して有効であること、楽しみながら人と学び合うことができることを体感した。
- ・ P Aをはじめとする体験学習の手法は参加者の気付きを促す形をとるため、体験と振り返りに十分な時間を必要とする。そのため、限られた授業時間の中で導入することの難しさがある。

# III

## アンケート調査結果

国立青少年教育振興機構が開発した「生きる力の測定・分析ツール」を活用し、アンケート調査を実施

対象：大館市立長木小学校、横手市立大森小学校、由利本荘市立西目小学校の児童 129名  
事前、事後、追跡調査を実施し、「生きる力」の変容を検証

### ●「生きる力」および3能力（心理的社会的・徳育的・身体的能力）における平均値の推移

生きる力の変容	心理的社会的能力の変容	徳育的能力の変容	身体的能力の変容
28問 (得点範囲28~168点)	14問 (得点範囲14~84点)	8問 (得点範囲8~48点)	6問 (得点範囲6~36点)
(得点) 150 130 110 90 70 事前 132.8 事後 141.6 追跡 136.4	(得点) 80 70 60 50 40 事前 65.2 事後 70.1 追跡 67.0	(得点) 50 40 30 20 事前 40.4 事後 42.2 追跡 40.9	(得点) 40 20 0 事前 27.2 事後 29.3 追跡 28.4
事前→事後 8.8P	事前→事後 4.9P	事前→事後 1.8P	事前→事後 2.1P
事前→追跡 3.6P	事前→追跡 1.8P	事前→追跡 0.5P	事前→追跡 1.2P

### ●生きる力・28項目の「事前→事後」および「事前→追跡」の変容

能力	調査項目	事前→事後	事前→追跡	
生きる力		<b>8.8P</b>	<b>3.6P</b>	
心理的社会的能力 (14問)	非依存	1 いやなことは、いやとはっきり言える	0.6P	0.4P
		2 小さな失敗をおそれない	0.4P	0.2P
	積極性	3 自分からすすんで何でもやる	0.2P	0.1P
		4 前向きに、物事を考えられる	0.6P	0.1P
	明朗性	5 だれにでも話しかけることができる	0.3P	-0.1P
		6 失敗しても、立ち直るのがはやい	0.4P	0.2P
	交友・協調	7 多くの人に好かれている	0.3P	0.1P
		8 だれとでも仲よくできる	0.4P	0.2P
	現実肯定	9 自分のことが大好きである	0.3P	0.0P
		10 だれにでも、あいさつができる	-0.1P	-0.1P
	視野・判断	11 先を見通して、自分で計画が立てられる	0.4P	0.3P
		12 自分で問題点や課題を見つけることができる	0.4P	0.2P
	適応行動	13 人の話しをきちんと聞くことができる	0.3P	0.1P
		14 その場にふさわしい行動ができる	0.3P	0.1P
徳育的能力 (8問)		<b>1.8P</b>	<b>0.5P</b>	
自己規制	1 自分かっとな、わがままを言わない	0.3P	0.1P	
	2 お金やモノのむだ使いをしない	0.2P	0.1P	
自然への関心	3 花や風景などの美しいものに、感動できる	0.2P	-0.1P	
	4 季節の変化を感じることができる	0.1P	0.1P	
まじめ勤勉	5 いやがらずに、よく働く	0.3P	0.1P	
	6 自分に割り当てられた仕事は、しっかりとやる	0.0P	-0.1P	
思いやり	7 人のために何かをしてあげるのが好きだ	0.3P	0.2P	
	8 人の心の痛みがわかる	0.3P	0.1P	
身体的能力 (6問)		<b>2.1P</b>	<b>1.2P</b>	
日常的行動力	1 早寝早起きである	0.5P	0.2P	
	2 からだを動かしても、疲れにくい	0.7P	0.3P	
身体的耐性	3 暑さや寒さに、まげない	0.3P	0.2P	
	4 とても痛いケガをしても、がまんできる	0.2P	0.0P	
野外技能・生活	5 ナイフ・包丁などの刃物を、上手に使える	0.2P	0.3P	
	6 洗濯機がなくても、手で洗濯できる	0.4P	0.2P	

### ●結果の分析

- ・事前から追跡にかけて3.6ポイント向上している。
- ・事前と事後、また事前と追跡（1ヶ月後）の比較では、「生きる力」の3つの要素（心理的社会的能力、徳育的能力、身体的能力）全てにおいて向上が見られた。

# IV

## 成果と課題

### 1 成果

○ I K R「生きる力測定ツール」のアンケートの結果、心理的社会的能力、徳育的能力、身体的能力の3つの能力全てにおいて向上が見られ、本事業は対象者の道徳的価値を高める上で効果があると考えられる。

	事前	事後	追跡
生きる力の変容	132.8 P	141.6 P	136.4 P
心理的社会的能力	65.2 P	70.1 P	67.0 P
徳育的能力	40.4 P	42.2 P	40.9 P
身体的能力	27.2 P	29.3 P	28.4 P

事前	→	追跡
3.6 P	↑	up
1.8 P	↑	up
0.5 P	↑	up
1.2 P	↑	up

- P Aプログラムと道徳の授業の関連付けによって、学びのサイクルの効果がより発揮され、学びの深化・定着を図ることができた。
- P Aプログラムでは、与えられた課題に対し、チームで目標を設定し協力して取り組む中で、自ずと考える場面が生まれるため、ねらいとする道徳的価値を、実感的に理解することができた。

### 2 課題

- P Aプログラムを、道徳の授業ツールの1つとして結び付けていくためには、教員と指導者との十分な打合せが必要であり、教員に理解してもらうため、P Aプログラムを学校現場へ周知していかなければならない。また、P Aプログラムが、それぞれの道徳的価値と結び付くか、今後検証していくことが必要である。
- P Aなどの体験活動の中で、子どもの変容を見るための方法も検証する必要がある。

#### PAプログラムの「学びのサイクル」

教師	児童
仲間力10倍にした行事がありましたね。そうですね。わんパークに行ったらどんな活動をしましたか。	ロープで渡るやつ。手合わせ。台に乗るやつ。フラフープづくり。ジャイアントシーソー。みんなで手をつないで立つやつ…。
今日は、みんなで立つことができたスタンドアップの活動を振り返って見ましょう。 始めはどんな様子でしたか。	バラバラで立てませんでした。無理だと思っていました。息が合っていなかった。どうすればよいか分からなかった。手のつなぎ方もバラバラでした。
活動の終わりにはどうなりましたか。	始めはバラバラだったけど、最後にみんなで立つことができた。無理だと思っていたが成功することができた。ぴったり息を合わせることができた。アドバイスあって立つことができた。
どうしてみんなで立つことができたのでしょうか。	協力してやったから。いい所、ダメな所の意見を出し合ったから。みんなで一緒に考え、力を合わせ、声をかけ合ったから。失敗した時は謝った。あきらめなかったから。成功させたいという思いが強かったから。
もう一度ビデオで成功したみんなの姿を見てみましょう。	(拍手わき上がり) うわあー、やった！できた！
わんパークのボボさんから、その時の皆さんの様子についてお話をさせていただきます。	協力するのは難しいと思っていたけれど、みんなで意見を出し合い、その意見をまとめて、声を出し合って協力していたということが分かりました。アドバイスや声をかけ合うことでどんなにいろんな事が成功するのを感じました。
今日の授業や、PAを振り返って感じたことを書いてください。	

### 3 今後に向けて

P Aプログラムを実施して、成功体験を得たことは、子どもたちの記憶に深く刻み込まれ、印象深いものであることが、今回の実践で分かった。それは、P Aが単なる体験活動ではなく、お互いを最大限尊重する（フルバリュー・コントラクト）ことや、自己選択・自己決定する（チャレンジ・バイ・チョイス）ことなどの約束を前提条件に、＜体験→振り返り→気づき→活用＞の「学びのサイクル」を大切にしている教育プログラムだからである。

今後、学校現場で、P Aプログラムが道徳の授業ツールの1つとして結び付けられていくためには、現段階での課題は多いものの、子どもたちや先生方の感想やアンケートから、一定の成果が見られ、P Aがもつ大きな可能性を示していると考えられる。子どもたちの人間形成や、良好な人間関係の構築に寄与すべく、今後もP Aプログラムを広めていきたい。

本事業は、P Aプログラムを道徳の授業ツールの1つとして結び付けていく日本初の試みであった。実施校として快く協力してくださった大館市立長木小学校、横手市立大森小学校、由利本荘市立西目小学校には、この場をお借りして深く感謝申し上げたい。



# 活動のスナップ

## 少年自然の家でのPA体験



さあ、みんなで立ち上がるぞ!



どのくらいできたか指メーターで表してみよう



頼りにしてるからしっかり教えて



どうしたらうまく向こうの島に渡れるかな?



フラフープ、全員でぐるのに何秒?



人数が増えてもうまく手を合わせられるかな?

## PA体験研修会



新学習指導要領や「特別の教科 道徳」とPAとの関連について学びます



みんなの手を離すことなく、表、裏、クロス、連続して動けるかな?



平成29年8月30日(水)付  
北鹿新聞



# 仲間づくりの大切さ学ぶ

プロジェクト  
アドベンチャー

## モデル校の長木小児童

30年度以降小中学校で道徳が教科化されるのを前に、協

調性や信頼関係構築を目指す

「プロジェクトアドベンチャー

(P.A.)」のモデル校指定を

受けた大館市長木小学校(六

部第二校長)の4年生18人が

29日、大館少年自然の家で体

験し、仲間づくりの大切さを

学んだ。

自然の家が長木小を指定。

4年生は毎年宿泊体験学習と

して同所を利用している。30

日まで1泊2日の滞在で、例

年登山にかけていた時間をP

Aに設定し、約3時間半を確

保した。

自然の家職員が講師を務

め、意見交換や課題解決、挑

戦などを狙いに実施。児童た

ちは、手をつないで輪になっ

た状態でフラフラを1周さ

せる「フープリレー」、ロープ

で全員が別の場所に移動する

「二トクロッキング」などを

体験。目標をクリアすると、

歓声や拍手が起こっていた。

4年生は同校で最も人数が

少ない学年という。「なかなか

か自分の意見を言い出せない

クラス」と担任の菊地悠希教

諭。P.A.の最中、児童からは

「意見があればすぐ発表し、

周りは話を聞く」助け合っ

て安全に活動する」といった声

が聞かれた。

同校では活動の様子を映像

や写真で記録し、学校に戻

った後で振り返りなどに活用

する計画。道徳の教科化は、小

学が30年度から、中学は31年

度からの実施となる。

多様な18題が発表された大館市文化会館



平成30年1月12日(金)付  
北鹿新聞

## ふるさとキャリア教育

# 発展へ共通理解図る

### 大館市 教員らが18題の実践発表

第10回大館市教職員研究実践発表会が11日、市中央公民館市民文化会館で開かれ、7年目を迎えるふるさとキャリア教育について、参加した約40人の教員関係者があらためて意思統一を図った。このほか教員らが各校で取り組む実践を18題を紹介した。

大館市教委主催。発表を造化を統括する大館の教育と題して子どもたちの可能性を伸ばす指導方法の追究、教員間の資質向上などが狙い。今秋からは市内で風習力向上フォーラムの開催を定めていることから、教員の情報共有も共通理解を目的とした。

ア教育のコンセプトには「大館盆地を教室に、市民一人一人を先生に」と掲げている。今後は「教室」を平査に変え、さらに発展させていくことを誓った。

全体会に先立ち、公民館文化会館の9会場を40分、教員らが18題の研究実践を紹介した。

このうち大館少年自然の家、小森所長の講話は、P.A.プロジェクトアドベンチャーを活用した道徳教育のススメ、P.A.は交流ゲームなどを通じて協働性や信頼関係構築を目指し体験活動。2018年度から小学校道徳が教科化。実効性を高めるため本年度協力を得た長木小4年との実践を紹介した。

小林所長は「P.A.には多様な教育的価値がある分、道徳で扱う場合は子どもの実態をどうとらえ、ねらいの焦点を絞ることが重要」と紹介。自然の家職員と担任教師の事前打ち合わせの必要性を説いた。小中学校教員に宿時や出前講座での活用を呼び掛けた。

同校の六部勇二校長は「自然の家での非日常の体験。自分の教室で級友と担任教師との日常で振り返ると、大きな成長につながっていく」と感じたと感想を述べた。

## 質の高い指導や学級経営力 大館市教委の各表彰決まる



# 授業マイスターに4人

大館市教委が優れた教育実践を顕彰する本年度の授業マイスターを選定した。表彰者は、団体が決まった。チャレンジャー、ふるさと授業を含め、教員4人、児童、2小中学校を顕彰。このほか児童連や、市の教育協に協力貢献した市民も表彰する。授賞式は3月2日、P.A.の形で進む。

市教委が推進するふるさとキャリア教育の理念に基づき、地域素材をかきたて、児童を2014年度から表彰して来ている。表彰者は日に長木公民館で開かれた教育委員会に報告された。

授賞式は、各教員が対象にした表彰、子どもハローワの活用が多かった児童連には奨励賞を贈る。多い順に▽阿部来琉来さん(種小5年、29回)▽渡部希さん(種小6年、16回)▽北林進さん(長

### 授賞式は3月2日

授業マイスターなど各賞の選考結果が報告された会議(長木公民館)

▽チャレンジャー 経済教育の実践(山口小・高橋弘樹教師)「親みの力を養う国際授業の実践」(有浦小・高橋しのぶ教師)「P.A.を活用した道徳」(長木小・菊地悠希教師)「実践的国際教育の創造」(比内中・根本大輔教師)

▽ふるさと授業Ⅱ(山瀬小「ネマガリダケの和紙づくり」)成童中「地域防災活動

平成30年2月25日(日)付  
北鹿新聞

体験活動を通じた道徳教育推進事業

# 報告書

平成30年3月  
秋田県教育庁生涯学習課